

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム福寿荘Ⅲ(草原ユニット)	評価実施年月日	平成19年5月30日
評価実施構成員氏名	大山 智子 北村 智哉 渡邊 郁子 葛西 誠 西山 優里 畑山 友里		
記録者氏名	大山 智子	記録年月日	平成19年5月30日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑
取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
	大抵の尊厳ある生活というものを大切に、共によりよい支えかけながら、住み慣れた地域・社会において定住して暮らしていくための支援というものを理念として掲げている。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
	尊厳あるケアの実践において、日々のケアの取り組みをカンパニストなどで話し合い、自立支援とは何かというものを常に意識して、日々取り組んでいる。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる		
	入居時から、理念に肉して説明し、又、来訪の際には、理念を伝え合わせて、日々のケアの取り組みを随時お伝えしている。		
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		
	ゴミ出しのムカヒは、刈田作業などを通して、作物の差し入れなど気軽に立ち寄ってもらったり、又、前年時ほど挨拶を交わしたりし、日常的なつきあいができるように努めている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		
	町内会に入り、資源回収、回らん情報等、地域の一員として、地域活動に参加している。又、消防団の子供達が活動を通して来訪するなど、地域との交流をはかっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるような支援している</p>		<p>学習会などを通じて、「成年後見制度」地域福祉権利擁護事業について学んでいる。</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>		<p>高齢者虐待防止関連法に関して詳しく理解を深めていきたい。 具体的に、 又、発見時の対応方法についても周知徹底していきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不安、疑問点についてはその場で説明を行い理解・納得を得ようと考えている。 又、日ごより十分なコミュニケーションをはか中で、必要に応じて話し合いの場を持つなどの対応にあっている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の言葉や態度から、その思いを察察するに日々努め、利用者本位の運営を心がけている。利用者の声を大切に、気持ちよく日々のケアへは入っていて、お互い安心して暮らすための工夫に励んでいる。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	承認の際には必ず情報(記録)を揃え、状況の変化(健康状態等)や金銭管理について定期的に及び個々にあわせた報告をしている	→又、コミュニケーションをはかすことを特に、行事への参加の呼びかけやイベント、日々のイベントなども加えて、報告を行うよう努めている。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃よりお互いに何でも言われるような雰囲気づくりに留意し、又医療の面において不安が点があれば直接Drと相談できるように情報提供を行っている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム長を中心として現場の意見を反映できるように会議において報告し、情報を共有している。 又、日々のカンパニースなども、意見を積極的に出してもらう機会作り、質の向上につなげられるように取り組んでいる。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	どのような状況に対しても柔軟に対応ができる体制を整えている。(勤休の勤務者の調整など) また、緊急時には専任人員を確保できるようにしている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動の際には、利用者へ伝えるストレスを必要最小限に抑えるように配慮している。(異動日前より何度も会いに行き関係作りはと行っている) 又、ご家族へもその場で説明を行ってご理解をいただくように努めている	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内外の研修には、積極的に参加できる機会を確保している 又、社内においては定期的には研修を行うなど、職員のスキルアップの機会が豊富にある。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	モデル的な会社とのネットワークができており、相互的に見学や研修会、交流を持つことにより、サービスの向上を目指している。又、市での連絡会などに参加し、情報交換を積極的に行う中で、人材の育成や、質の向上に励んでいる	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員ひとりひとりの心がえるストレスにより、勤務内外において言えること、その軽減にむけて十分に配慮している。又、研修会などを通じて、地域内や関係者との交流をはかり、ストレス軽減対策を講じている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の資格取得に向け支援を積極的に提供し、又、職員個々の努力や成果に対して向上心を持って働けるように、研修や学習会などの参加などの取り組みを行っている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前見学などで、気軽に遊びに来てもらうなどして、どのような人なのか、本人の雰囲気や特徴などを察し、又、本人のおかれている状況と理解を深め、不安なこと、困っていることを受けとめられるよう努めている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族一人一人の想いや、求めているものを理解し、十分な話し合いを重ねる中で、困っていること、不安なことがあればお互い、いつでも相談にのることでこのような関係づくりに努めている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人にとって必要な情報を開示し、その中で必要な支援を見極め対応に努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前より、気軽に遊びに来てもらった。サービス利用時、何卒の遊びに来て頂く際の回数に気づいたら入居後にケースがある。入居後すぐは、ご家族からご協力を得て相談の上来訪して頂く際に馴染めるような配慮を行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	共に生活を過ごすというケア理念に基づいて、常に相手の立場に立って、出来る限りのその人を支え入れ、受け入れてもらう中で、共に支えあえる関係(ホッポ)に努めている		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の思いに寄り添いながら、日々の生活の様子、ご本人の声をお伝えし、又、ご家族から、本や、ご家族自身の話しを聞き、情報を共有の中で、共に支えあいが、その人を支えていくことの大切さを学ばせていただいている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族の本人への思い、本人の家族への思いを受けとめて、その思いが、結びつきのような働きかけを仕掛けている。又、家族と過ごす時間大切とスタッフ一人一人が認識した上で、手厚くサポートしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の昔の友人や、見舞場の人や遊びに来たり、又、今までの行っつづの美容室へ行くなど、継続的関係の交流が出来るように仕掛けていく。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係性を、日々のケアにおいて把握し、一人ひとりの思いを察し、支えあえる関係の形成や、全員の調整を行う中で、互いに関わり合えるように努めている。又、自身の経験や、感情面においての調整も行う対応している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービスの終了後も、ご家族と共に遊びに来るなど、必要に応じて場合には、いつでも相談にのれるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや意向について、いつらびに伺いながら、本人との対話を通じて、感じてもらうように努めている。又、スタッフ間、家族とも情報を共有することで、少しでも希望に添えられるように努めている。		
34 ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人を知り、どのような生活歴や生活環境を知ることができているかを把握し、ご家族へもその中で生活の経験や情報を提供している。又、普段の生活の様子や気付きがあれば、ご家族へも伝えて、その人らしい暮らしを支える支援を行えるように努めている。		
35 ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの生活のリズムを総合的に理解すると共に、日々の過ごし方や心身状態を把握することで、小さな変化にも気づき、必要に応じて支援を行うように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人のニーズ、思いをしっかりと反映させる為、アセスメントの時点からご家族、本人を含めスタッフ間で十分な意見交換の場(カンファレンス)を持って作成にあたり、		
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。		介護計画の期間を本人の状況に合わせて柔軟に見直しを行うように努めている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録用紙の中に「介護計画」の欄を設け、どのように具体的にと取り組まれているか記入し、本人の承認を得た上で、ソヤやイメージでできるように記録に添えておくようにしている。 また、ケアプランのノートを作成し、気づきなどの情報を共有できるようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	サービスの利用から、利用者の内係とつくり、本人の状況の要りに合わせて、(自宅での生活が、困難な場合には)ケアに入居した方など、事業所内の機能性を活かした柔軟な支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	本人の意向や、これからの肉体的継続として、ボランティアの方が来訪し、流しをばらしたり、又、近所の方が、ボランティアで掃除をしてくれるほど、色々な資源とのつながりを感じ、協力を得ながら支援にあたっている。 又、避難訓練の際は、消防の方と連携し、協力をしている。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の状況や、希望、必要性に応じて、訪問理美容を利用したり、ボランティアによる送迎サービスを活用するなど、色々なサービス資源を活用し、活用している。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に参加して頂き、認知症介護の対応について、又、又方から積極的な意見交換を行い、周辺情報や、支援に必要情報交換、協力関係を築いている。		
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医の他に、ご家族との話し合いのし、今般のかかりつけ医での医療を受けられよう、協力関係を築いている。又、月2回の往診時には、ご家族から希望があれば、同席して頂くので、心配事や相談のめは直接医師と相談対応してくれる等、日頃よりかかりつけ医との連携のもと、適切な医療を受けられよう、に支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	自分自身、周りのスタッフの対応を含めて、日々のケア姿勢が、理念、根拠に基づいているものと合わせて取り組めるよう、リーダーが中心となってお互いに声をかけ合うよう心がけている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	その時々状況に合わせて、本人の意欲、希望が表せるように、利用者に合わせて声かけ、表情や行動、行為を認めるとし、その人らしいという点に希望や願いを表現所に引き出すように取り組んでいる	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に、又、途中でよりよその人らしくいられるようにご家族や本人を含めて情報を共有し、日々のケアに取り組んでいる。 (毎日の習い事などの継続など)	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の好み、又、その人らしい身だしなみ、おしゃれを毎日お楽しみできるように心がけて、本人やご家族からのお話をきく中で、ひとりひとりの生活習慣に合わせて支援している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	「食べる」ということの楽しみや喜びを一緒に感じながら一人ひとりの好みや、旬の食材を工夫して調理している。食事を1日の大切な活動のひとつとして取り組んでいる。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	今の生活習慣として、一人ひとりの嗜好品を楽めるよう本人やご家族からの情報を共有し、その人の状況に合わせて楽しめるよう支援している。(時間、場所と決めた喫煙や飲み物などの嗜好品など)	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの排泄のリズム・サイン、また排泄できないことをしっかりと見極め、サポートは指導とサポートのバランスをとり、その時の状況に合わせて随時見直し(認知)に情報と教育している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの状況に合わせて、スタッフ間で連携し、又、ご家族からご協力を得て、日々の支援にあたり、		入浴支援における意義・大切さを確認の上で、スタッフ一人ひとりが認知し共有し、利用者に合わせて満足していただけるように支援していきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	本人に合わせて、生活のリズムを把握し、休息と活動のバランスを考えながら、日々のケアに取り組んでいる。又、気持ちよく休める環境(音、匂いなど)について配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ご家族やご近所の方と、今までの生活習慣を大切にしながら、生活(楽しみごと)に積極的に行っている。(昔ながら、バトミントン、将棋など) 又一人ひとりの個性を大切に、共に楽しむこと大切に支援にあたり、		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族との協力のもと、その人の希望や力に合ったお金の所持・金銭管理の支援を行っている。本人のニーズに合った必要な時には使用できるように伝え、本人が安心して生活できるようにサポートしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ご家族と一緒に外出の機会が多く、本人、家族が安心して外出を楽しめるように、日々の中で情報を共有して積極的に支援にあたり、又、気分転換を促すために、気軽に出て、畑や庭で自然と交流を促すなどの取り組みしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	本人の想いや希望を尊重し、家族、本人と相談、協力を得ながら、出かけられるように機会を積極的に支援にあたり、(病院へのお見舞、自宅への外出など)		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望、また必要に応じて電話や手紙のやり取りをしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	本人の希望や時間の都合を考慮し、いつでも気軽に訪ねられることのできるような雰囲気作りを心がけ、又、気兼ねなく訪ねられるように、多目的室を活用して頂くなど、良い時間を過ごすことのできるよう配慮している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々のカンファレンスの中で、自分たちのケアを振り返り、自覚的な身体拘束が行われていないかなどを点検している。		権利擁護や身体拘束に際して学習を行い、スタッフ全員が共通理解をもって正しく判断できるようにしていきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	本人の状況状態に合わせて、スタッフ間で連携をとりながら、見守りやさりげなく声をかけたり、一歩前について等、安全面に十分に配慮しながら、支障している。又、玄関のドアにバールが置いてあり、音で知らず居る等、工夫している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	家事の様子を記録、又、会話やケアに入っている間も、さりげなく相手の様子を感じながら、状況を確認し、チームで連携をとりながら、安全にケアがとれるように配慮している。又、プライバシーには十分に配慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状況に合わせて、注意が必要な物は什物と把握し、管理方法について取り決めを行っている。又、薬、刃物等については、その危険性に対して理解し、管理の徹底を心がけている。		薬や刃物等にかかわらず、一人ひとりに対しての危険要因は何をこの機会に再度確認し、状況に応じて柔軟に対応できるように検討していきたい。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	緊急時の対応マニュアルを作成し、一人ひとりの状況や予測される危険について検討を行い、その対応方法の確立、又、事故予防にむけて、取り組んでいる。又、事故が発生した場合、原因と対策を共に検討し、ご家族にも説明と報告を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルを作成し、おこなう急変症状や事故に備えて、日頃より対応方法についての把握を図っている。		緊急の際に慌てずに、確実かつ適切な行動がとれるように、応急手当についての学習や訓練を定期的に実施していきたい。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災訓練など定期的にを行い、避難方法や石階の恐れ、その方法について見直しを行っている。又、防火管理室の指導など、ボイラー間や避難路、昇降機の点検を毎日行っている。		
72 ○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	現在の状況、又、是より得るリスク、その対応方法（理念に基づいたものであることも含め）については、そのつど、ご家族へ伝え、理解、協力を頂いている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	とくに季節の変わりめには健康管理には十分に気を付けて、少しでも体調同の変化、異変があった際には、NSなど報告、相談し、情報の共有につとめている。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容については、その目的、用法、用量について十分に理解し、服薬による症状の変化を把握していること（できる限り）に、言及し、情報の共有に日々つとめている。又、状況に応じて医師へ相談し、指示		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	できるだけ、自然な状態での排泄につとめるように、日頃より、その排泄パターンをチェックし、食事の摂取による工夫、又、運動を行って、働きかけるようにつとめている。		本人の
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	一人ひとりに応じて、見守り、介助を行っている。又、ご家族からも協力を得て取り組んでいる。		一人ひとりの状態に合わせて、できる限り（できる限り）には、対応（対応）に日頃よりつとめている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの嗜好や栄養バランスを把握し、食事、水分の摂取状況について定期的にスタッフ間で情報の共有に努めている。又、本人の状況リズムに合わせて、食べられる時に食べられるものを提供するよう工夫している。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	手洗いの徹底、マスクの着用を促し、予防や対応について研修を行っている。又、情報の収集を行い、流行の際に随時対応し、早期発見、早期対応に努めている。		
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	週に一度は業者と打ち合わせを行い、日々の衛生管理には注意を払っている。食中毒の発生を防ぐために、食材の鮮度や賞味期限に十分注意し、安全に食べられるように努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
80 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	一人ひとりの生活スタイルに合わせて、玄関まわりの工夫を施している。		
81 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	音や人の動き、光、におい等、五感刺激に対する配慮を行い、花やぬいぐるみ、クリスマスツリーなど、季節感を生活空間の中に入れて、暖かみのある空間づくりを行っている。		
82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファテーブル、イス、TVがあり、居間やリビングスペースとして多目的空間がある。居間は別の空間スペースで「リビング」や「お風呂」の隅にいたり、ご家族が来られたときに活用してもらっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83 ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、又入居後、本人の状況に合わせて居心地よく過ごせるように使ったもののほか、お気に入りのものを使用し、工夫している。		
84 ○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	十分な換気をこまめに確認し、又、湿度調節についても利用者の状況に合わせて、配慮している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下両側に手すりの設置、エレベーター乗降時の補助、手すりや手すりの高さなど、利用者の状況に合わせて、安全に自立を支援した工夫をしている。		
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	カプレンスなどを通して、本人の状況をアセスメントし、環境改善から混乱やストレス軽減を図っている。(金庫の設置、YやTVなどの設置等)		
87 ○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の外周には、ベンチやテーブルの設置を通じて四季感を感じ、楽しみの場として活用している。		

V. サービスの成果に関する項目		取り組みの成果
項目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<ul style="list-style-type: none"> ① 毎日ある ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての家族 ② 家族の2/3くらい ③ 家族の1/3くらい ④ ほとんどできていない

Ⅶ. サービスの成果に関する項目		取り組みの成果
項目		
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

50代にして、
 ・ユニットの特徴として、「若年性」ということで、 今の社会生活の定まらないうちから不安、辛さなどの中にある人に対して、本人の思いその人らしいを大切に、日々の生活を一緒に歩み立て、お互いに支えあえる関係づくりを目標にケアに取り組んでいる。又、認知症の進行も早いことから、本人の戸惑いをしっかりと見極められるよう、状況の変化について情報を共有し、取り組んでいる。(行動の定まらないうちから不安、辛さなど、認知症の進行も早いこと等によるケアの必要性など)
 ・家族の方との時間を大切に、情報をしっかりと共有できている。信頼関係が築けるよう、取り組んでいる。